

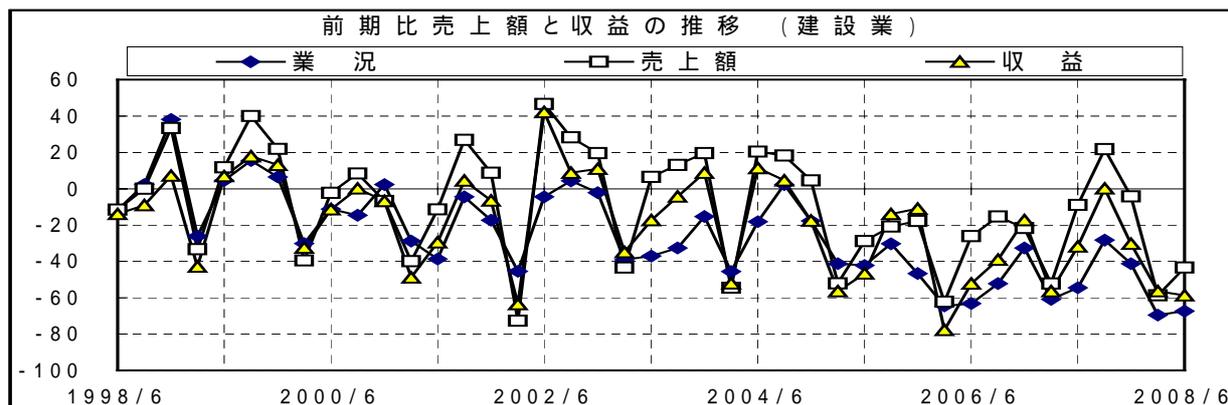
建設業 46 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

景況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-41.3	-69.6	-67.4	-43.5
売上額	-4.3	-58.7	-43.5	15.3
収益	-30.4	-56.5	-58.7	2.1

今期の業況判断DI値は 67.4 と、前期比 2.2 ポイント改善したものの、過去 10 年間の 4~6 月期実績の中で最も低い水準となった。地区別にみると、前期比 静内、三石、広尾地区で改善し、えりも地区が横ばい、浦河、様似地区では悪化している。

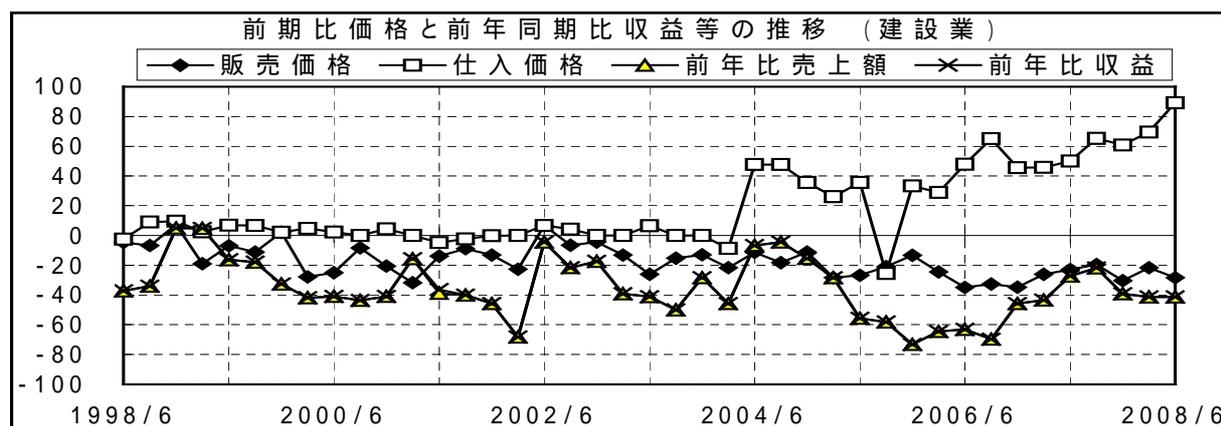
売上額判断DI値は 43.5 と、前期比 15.2 ポイント上昇した一方、収益判断DI値は 58.7 と、2.2 ポイントの低下となった。



価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
請負価格	-30.4	-21.7	-28.3	-10.8
仕入価格	60.9	69.5	89.1	73.9

請負価格判断DI値(28.3)は、前期比マイナス幅が 6.6 ポイント拡大、価格低下基調が強まっている。一方、仕入価格判断DI値(89.1)では、前期比プラス幅が 19.6 ポイント拡大、価格上昇基調が強まっている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-17.4	-23.9	-37.0	-8.7
人手状況	10.9	28.3	41.3	2.1

残業時間判断DI値は 37.0 と、残業時間が減少したとする企業割合が増加し、前期比 13.1 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 41.3 と、前期比プラス幅が 13.0 ポイント拡大、人手過剰感が強まっている。

設備投資の動き

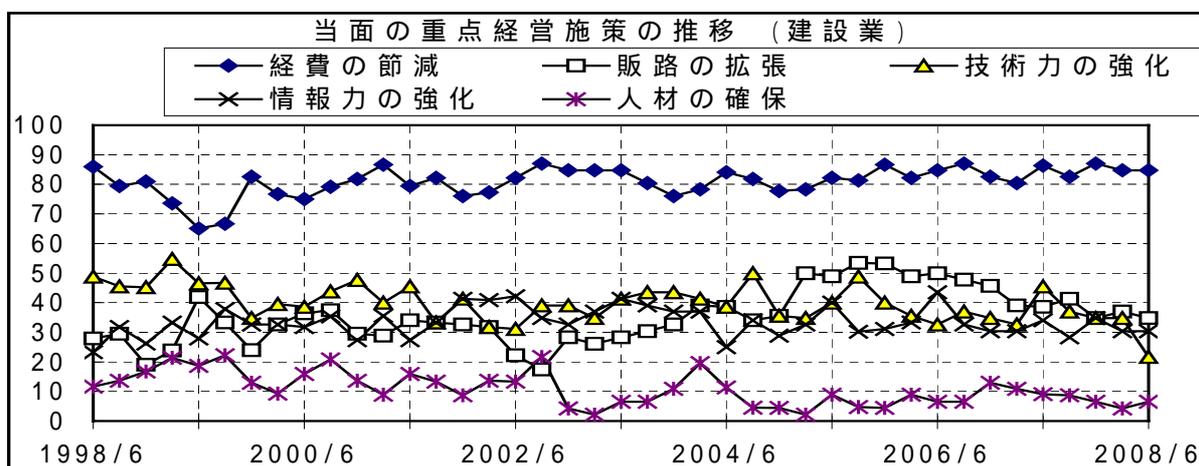
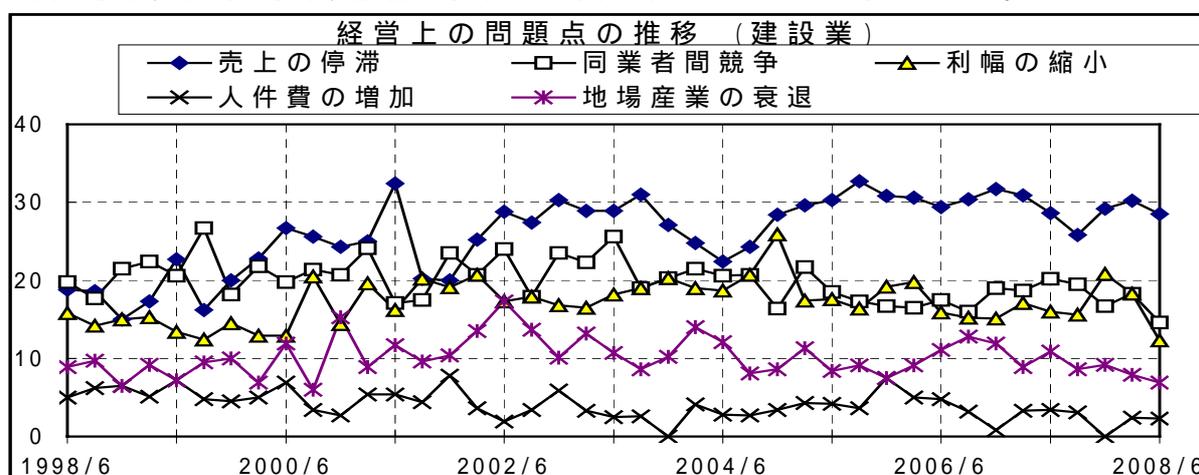
設備投資の充足感を示すD I値は19.6と、前期(13.0)からプラス幅が6.6ポイント拡大し過剰感が強まる一方、適正と回答した企業は71.8%で、前期(82.6%)から10.8ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は19.6%と、前期(8.7%)比10.9ポイント上昇し件数で前期の4社に対し9社の実施となった。一方、来期予定では当期比1社減の8社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ28.5%、次いで「材料価格の上昇」20.8%、「同業者間との競合」14.6%、「利幅の縮小」12.3%の順に続き、前期との比較では「材料価格の上昇」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業が「売上の停滞」、設備工事業が「売上の停滞」、「材料価格の上昇」等をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ84.8%、次いで「販路を広げる」34.8%、「情報力の強化」30.4%、「技術力を強化する」21.7%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業で「経費の節減」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(20年7~9月期)の予想業況判断D I値は43.5と、今期(67.4)実績比23.9ポイントの改善を見込んでいる。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額15.3(今期43.5)、収益2.1(今期58.7)と、それぞれプラス水準に転じ今期実績比58.8、60.8ポイントの大幅上昇を見通している。

予想請負価格判断D I値は10.8と、今期(28.3)実績比マイナス幅が17.5ポイント縮小、価格低下基調が弱まる見通し。一方、予想仕入価格判断D I値は73.9と、今期(89.1)実績比プラス幅が15.2ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

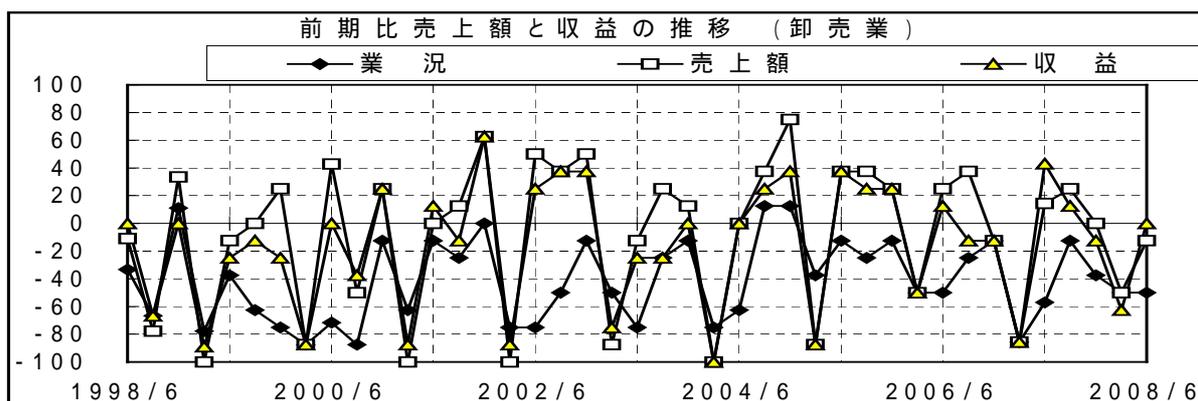
景況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-37.5	-50.0	-50.0	-50.0
売上額	0.0	-50.0	-12.5	-37.5
収益	-12.5	-62.5	0.0	-25.0

収益は 62.5 ポイント上昇しゼロ水準に転じた。

今期の業況判断DI値は 50.0 と、前期比横ばいで低い水準にとどまっている。地区別にみると、前期比三石地区で改善し、静内、様似地区が横ばい、浦河地区では悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額 12.5、収益 0.0 と、それぞれ前期比マイナス幅が大きく縮小し、売上額は 37.5 ポイント上昇、また、

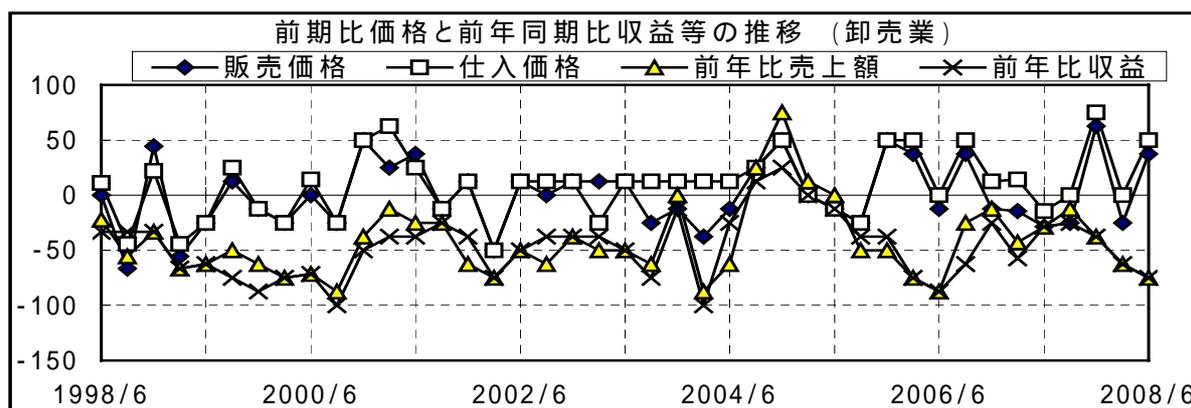


価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	62.5	-25.0	37.5	12.5
仕入価格	75.0	0.0	50.0	12.5

DI値で低下、農産・水産物は販売、仕入価格判断DI値ともに上昇している。

販売価格判断DI値(37.5)は、前期比マイナスからプラスに転じ62.5ポイント上昇、また、仕入価格判断DI値(50.0)は、前期比ゼロからプラス幅が50.0ポイント拡大し、それぞれ価格上昇基調が強まっている。業種別にみると、前期比食品は販売価格判断DI値が横ばいとなり仕入価格判断DI



雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	0.0	-12.5	0.0	25.0
人手状況	-12.5	25.0	12.5	-25.0

残業時間判断DI値は 0.0 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少しマイナスからゼロ水準に転じ、前期比 12.5 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 12.5 と、前期比プラス幅が 12.5 ポイント縮小、人手過剰感が弱まっている。

設備投資の動き

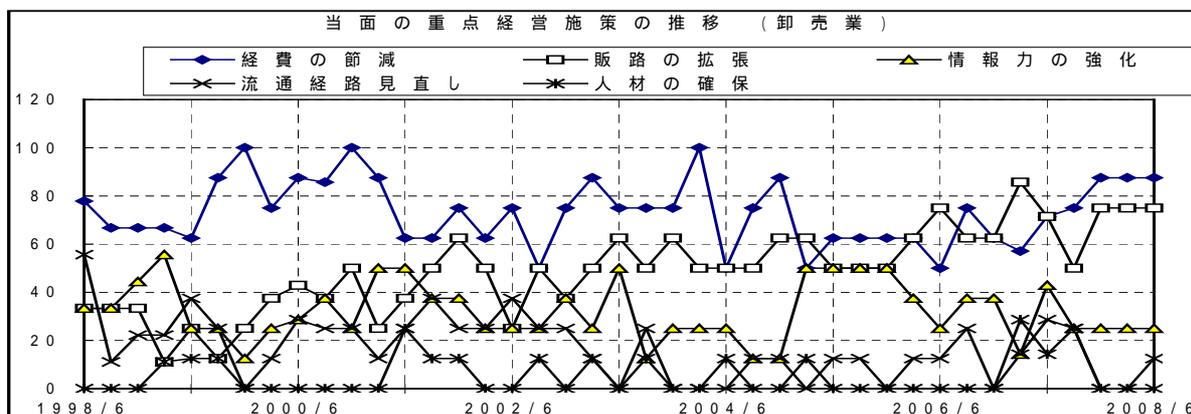
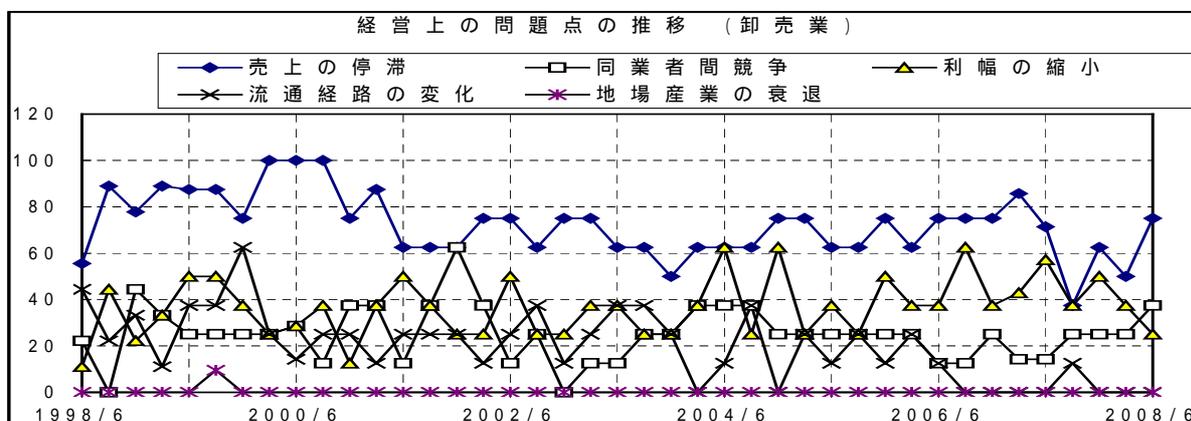
設備投資の充足感を示すD I値は 25.0 と、前期(0.0)比 25.0ポイント低下、ゼロからマイナスに転じ不足感が強まる一方、適正と回答した企業は 75.0%で、前期と同じ割合になっている。

設備投資実施企業割合は 25.0%と、前期(12.5%)比 12.5ポイント上昇し件数で前期の1社に対し2社の実施となった。一方、来期予定では当期比横ばいの2社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ75.0%、次いで「同業者間との競合」37.5%、「利幅の縮小」、「仕入先からの値上要請」25.0%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」、「同業者間との競合」、「仕入先からの値上要請」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、食品、農産・水産物で「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ87.5%、次いで「販路を広げる」75.0%、「情報力の強化」25.0%の順となっている。業種別にみると、食品が「販路を広げる」、農産・水産物が「経費の節減」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(20年7~9月期)の予想業況判断D I値は 50.0 と、今期(50.0)実績比横ばいで低い水準見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額 37.5(今期 12.5)、収益 25.0(今期 0.0)と、それぞれ今期実績比 25.0、25.0ポイント低下を見通している。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格 12.5(今期 37.5)、仕入価格 12.5(今期 50.0)と、それぞれ今期実績比プラス幅が 25.0、37.5ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。